

サポクラ 通信

令和5年(2023年)8月号

今月の内容は...

- ・アライグマのトレーニング1
- ・最近の総合水鳥舎の動物たちの様子！4
- ・すごいぞ！ダチョウの卵6

アライグマのトレーニング

サポートクラブの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。
4月からアライグマ・ニワトリ・モルモットを担当している大屋優里です。
どうぞ宜しくお願いいたします。

私もつい先日まで足繁く通いサポクラ通信を読んでいたうちの1人なので、
非常に不思議な気持ちで執筆しているところです。

さて今回は、今進めているアライグマのトレーニングについて紹介いたします！

昨年6月に推定生後2ヶ月で来園したチャロ。来園当初の幼獣ならではの愛くるしい姿を記憶している方もいらっしゃるかと思いますが、今では警戒心の強い立派なアライグマに成長しています。私が担当し始めた4月下旬頃は、天井近くの配管の陰に隠れながら職員に対して唸り、ストレスで尻尾の先を毛引きすることもありました。日々の健康チェックも十分には出来ない状態だった為、まずは誘導するところからトレーニングを開始しました。



トレーニング開始前（4月下旬）

展示場の端にある配管の上からほとんど降りてきません。
近付くと、とにかく唸られました。
エサは人気の少ない時間帯や夜中に採食していた様子でした。

毛をかじって
先細りした尻尾



トレーニング開始（GW明け～）

好物のリンゴやブドウを使って地道に誘導を試みます。
毎日30分近く粘る日々。しかしある日、アメリカザリガニを与えてみたところ、運良くこれが起爆剤となりました。ザリガニ欲しさからこちらが危険を感じるほどの興奮状態になることも。
暖かくなってきたことも相まって、5月末には日中も降りてきて人目を気にすることなくエサを探索して回るようになりました。



目的を持って誘導するトレーニング (6月～)

チャロの過度な警戒心が解けてきた反面、ザリガニによる大興奮や、エサを差し出した際に飛び掛かる勢いで執拗に迫って来るといった行動が目立ち始めました。そこでお互いの安全を確保する為、作業時などに目的の場所に誘導するトレーニングに移行しました。



初めはザリガニでしか誘導出来ない状態でしたが、約 2 週間後には日常的に与えているエサのいずれでも、落ち着いて目的の場所に誘導出来るようになりました。行動パターンなどから、チャロが今、何を求めているのか冷静に判断し、そのタイミングに合わせて私自身もアクションを起こす…。このトレーニングで私も多くの学びを得ているような気がしています。

ハズバンダリートレーニング (7月～現在)

この感じなら更に細かなトレーニングが出来るのではと思い、日々の健康管理や採血などを行う為のハズバンダリートレーニングへと移行しました。アライグマは手先を器用に使って採食する為、エサを差し出すとどうしても両手が出てしまいます。まずは塩ビ管(ターゲット)に触れることから始め、今ではその先に取り付けた横棒を掴ませたままキープすることが出来るようになりました。僅か数日で次のステップに進めることが多くなってきており、アライグマの学習能力の高さを実感しています。



これだけ見ると人馴れして可愛らしく見えるかもしれませんが、今でも見慣れない職員が現れると警戒してすぐに配管上に逃げ、息が合わずエサを落とすなどの些細なきっかけでひどく怒ります。どれ程トレーニングが進歩しようともアライグマの特性が薄れることはありません。ペットとして扱える動物ではないと身を持って感じると共に、常に緊張感を持って接する毎日です。



尻尾の太さも均一に！



現在、トレーニングは週 5 日程度、昼下がりの午後を実施しています。

タイミングが合いました際には是非のぞいてみてください！

最後に…ニワトリとモルモットの近況もチラッとご紹介します。もう少々お付き合いください！

ニワトリ

当園では現在、オヒキドリ 1 羽、オナガドリ 4 羽を飼育しています。ニワトリの寿命は 10 年程とされていますが、5 羽とも 11~12 歳のご長寿です。健康な時間を出来る限り長く保ち、より快適な余生を過ごせるよう日々努めています。



特に家畜種やペットとして飼育されている鳥類は、筋胃(いわゆる砂肝)に小石や砂が過剰に貯留し、体調を崩してしまうことがあります。高齢個体には長年の蓄積がある可能性も考え、これを防ぐ為にエサ置き場にアジアソウの糞で作った堆肥を敷きました。

その結果、エサと共に砂を飲み込む様子が格段に減ったのは勿論のこと、ニワトリの好物である昆虫類が多々入り込み、クローバーも生えてくるなど堆肥ならではの現象が起きました。時々、通常のエサ以上に勢よくついばんでいる様子が見られるようになり一石三鳥の効果を発揮しています。秋の砂の入替え時には小屋の中も土とゾウ堆肥のタッグに変更予定です！



モルモット

今年はモルモットたちにも厳しい夏になっています。群れを展示している場所は西日がきつく、日陰に密集することが増えてきました。そこで先日、日除けの布(寒冷紗)を窓の大部分に設置しました。少々ご覧いただきにくい状況が続きますが、ご理解いただけますと幸いです。



暑さ対策で設置した氷ペットボトル。個体により使い方も様々です。

最近の総合水鳥舎の 動物たちの様子！



いつもご支援ありがとうございます。4月から総合水鳥舎を担当している沼倉です。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今回は…総合水鳥舎の動物たちの行動や過ごし方をご紹介します。と思います。

■フンボルトペンギン

近日、北海道も暑すぎる日が続いてフンボルトペンギンたちも夏バテバテ…。

今年、スプリンクラーを設置したのですが、水浴びしている個体もいれば嫌がる個体も…。

餌時は、水を浴びるようにプールに促す工夫をしています。

今年は5月から換羽が始まり、残りは15羽中2羽です。

(8/20 現在)



■アカツクシガモ

総合水鳥舎で一番気が強いのがアカツクシガモのオス。メスはすぐに守りに来てくれます。

日陰で休む姿はまるで天使のよう…。

プールの水を変えるとすぐに入って水浴びをしています。

水に入っても、草むらのなかでゆっくり休んでも、

飼育員の姿を見つけた瞬間にすぐに走ってきます…。



■ショウジョウトキ

ショウジョウトキも暑いのでしょう。
水を飲んでいる姿がよく見られます。
「あっフラミンゴのヒナだー！」と
変わらずたくさん耳にします。啓発活動がんばります。



■タンチョウ

・十兵衛が暑そうにしている姿がみられたため、
6月に西側の檻に寒冷紗を貼りました。
寒冷紗によってできた日陰でよく休んでいる姿が
確認できます。
・餌のホッケもこの暑さで腐らないよう
氷を入れて与えています。
・今年は、2年ぶりに換羽がきました。今回は一気に抜けるのではなく、
少しずつ羽が落ちてきています。
・体重測定にチャレンジしています！
定期的に体重が測れるよう、トレーニングを続けてまいります。



■シュバシコウ、アオサギ、ゴイサギ

みんな開口呼吸(※1)したり、翼を広げたりと
暑さをしのいでいる姿が多々見られます。
ゴイサギが、器用に嘴を使ってきれいな巣を作っていて、
最近はたくさんの枝を準備するのが飼育員としての楽しみです。
うまく枝を嘴にくわえながら巣に到着したのですが、
最後に枝を落としてしまって下を見ていたゴイサギの顔が忘れられない…。



※1…鳥には汗腺がなく、汗で体温調節ができないため、口を開いて呼吸することで体温を調整しています。

まだまだ暑い日は続きそうですが、
動物たちに快適な夏をすごしてもらうために飼育員として試行錯誤し、
毎日飼育作業に引き続き取り組んでまいります！
みなさまもお身体には十分お気を付けください。
ぜひまた、円山動物園にお越しください！心よりお待ちしております。



すごいぞ！ダチョウの卵

サポートクラブ会員の皆様いつもありがとうございます。キリン館チームの千葉です。

今回はダチョウの卵についてお伝えしたいと思います。他の鳥類の卵と何が違うの？と思われるかもしれませんが、魅力がたくさん詰まっていますのでご紹介いたします。

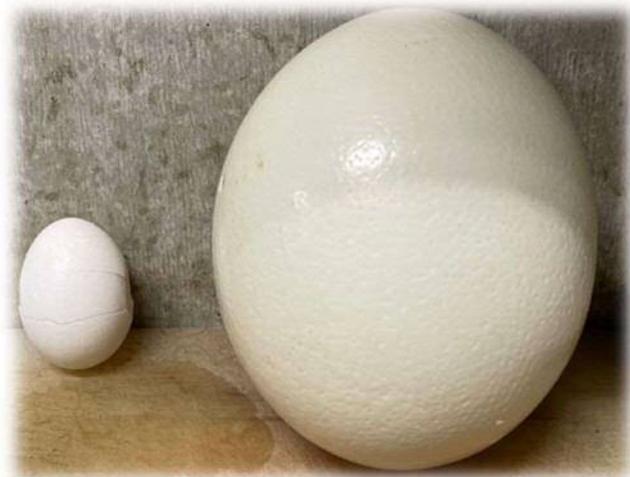
その1 全てが規格外の大きさ！

ダチョウの卵の大きさは、縦の長さ約15～18cm、横の長さが約13cm、重さが約1.5kgにもなります。これは現在地球上に生存している動物の中でも最大です。皆さんも想像しやすいようにニワトリの卵と比較していきましょう。

	縦の長さ	横の長さ	重さ
ニワトリの卵	5.5cm	4.3cm	約60g
ダチョウの卵	15～18cm	13cm	約1.5kg

このように鶏卵の20～25個分の大きさがあります。

ダチョウは2年ほどで性成熟し、これほどの大きさの卵を年間40～50個。優秀なメスだと年間100個も産むこともできます。



←向かって左が鶏卵、右がダチョウ卵です。違いは一目瞭然ですね。

その2 とても便利な殻！

ダチョウの卵の殻はとても丈夫で、厚さが2mm程になります。数字だけ見るとあまり薄く感じられないかもしれませんが、100kgくらいの重さにも耐えることができると言われており、衝撃や外敵の攻撃から守ってくれます。

ここで一つ疑問が湧きませんか？

「そんなに硬いのにならどうして出てこられるの？」と、思われるかもしれませんが、どうぞご安心を。内側からの衝撃には弱く、ヒナの手でも殻を破ることができます。このようにとても都合の良い作りになっていますが、それを可能にしているのが楕円形をしている卵の形です。ダチョウには直接関係ないのですが高いところに巣を作ることが多い鳥類では落下防止のため転がりにくくする役割もあります。鳥類の卵のほとんどがこのような形をしているのはこれらが主な理由です。

とても丈夫で加工しやすいため、エッグアートと呼ばれるインテリアに利用されたいもしています。



←殻は分厚く陶器のような見た目をしています。

このようにインテリアとしても人気です→

画像出典:ダチョウの卵の殻 | DAUCHO WILD

KITCHEN(最終閲覧日 2023年8月13日)

<https://shop.daucho.com/items/40261>

[766](#)

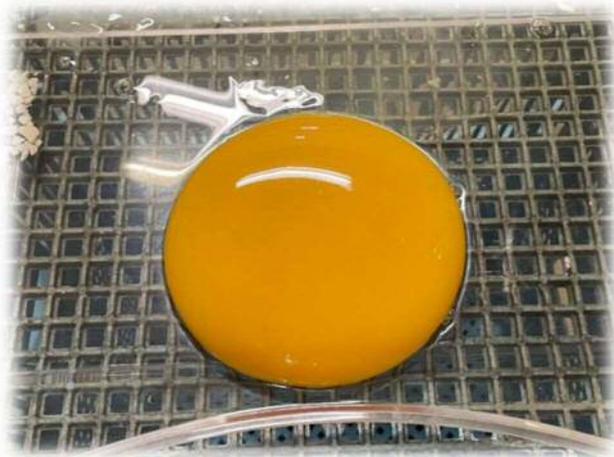


その3 実は栄養満点！ダチョウの卵は食べられる!?

実はダチョウの卵は食用としても優秀です。

卵黄には必須アミノ酸、カルシウム、マグネシウム等が豊富で、鶏卵とほぼ同等の栄養素が含まれています。また、卵白は低カロリー、低脂肪、低コレステロールでヘルシー。さらに卵アレルギーの原因であるオボムコイドやオボアルブミンと言われる物質が鶏卵よりも少ないためアレルギーを起こしにくいとされています。

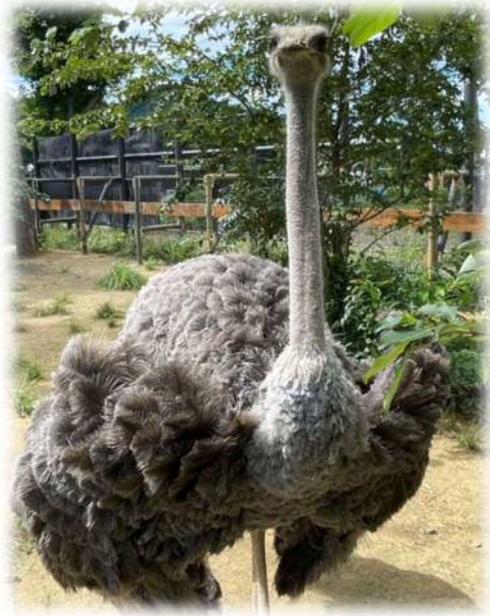
動物園では無精卵が採れた場合、貴重なタンパク源として他の動物に食べてもらっています。



←中身も鶏卵そっくりです。

最後に

今回は卵に焦点を当ててみましたが、ダチョウにはまだまだ他にもたくさんの魅力が詰まっていますので是非会いに来てください。



← 獣舎内に産みます。
産む瞬間を見られたら幸運です。